



【開催報告】

RA 協議会でネットワーキングセッションを催しました。

若手アカデミーは、8月8日に東京たま未来メッセで開かれたRA協議会第9回年次大会において、「学術会議若手アカデミーと考えるリサーチ・アドミニストレーションの未来」と題するネットワーキングセッションを催しました。RA協議会（一般社団法人リサーチ・アドミニストレーション協議会 <https://www.rman.jp>）は、我が国の研究力強化を進める大学等の各組織が取り組んでいるリサーチ・アドミニストレーションの定着と展開を図るべく、全国的に組織されたコミュニティで、33の組織会員と、600名あまりの個人会員、3組織の賛助会員から構成されています。若手アカデミーがRA協議会の年次大会にセッションを立てるのは、今回が初めての試みでした。

セッションにはURAを中心とする参加者約50名が参加し、立ち見が出るほどの盛況でした。冒頭、岩崎渉・若手アカデミー代表が、若手アカデミーの構成と、若手アカデミーからの参加者を紹介したのち、これまで若手アカデミーで議論してきた『2040年の科学・学術と社会を見据えて取り組むべき10の課題』を解説し、小野悠・若手アカデミー幹事によるファシリテーションのもと、参加者との意見交換を行いました。続いて、高瀬堅吉・若手アカデミー会員から、横浜市立大学を拠点とする共創の場形成支援プログラム「Minds1020Lab」プロジェクト（<https://minds1020lab.yokohama.ac.jp/>）における「ビヨンドURA」の取り組みについて紹介があり、意見交換を進めました。最後に「スーパー名刺交換会」を銘打って、ネットワーキングのための名刺交換を行い、セッションを締めくくりました。今後も、研究環境の改善に向けて、若手研究者とURA・技術職員・事務職員の関係づくりを進めていければと思います。



（報告者：近藤康久／総合地球環境学研究所）